

## 避難は自らの判断で

### ①水平避難

- 自宅に災害の危険が迫っている場合は、安全な場所（避難所等）に避難する。



水平避難

### ②垂直避難

- 浸水による建物倒壊の危険がない場合は、自宅や近隣建物の2階以上に緊急避難する。



垂直避難

いのちを守るため、自ら判断して最善の行動をとりましょう！

## 浸水害からの避難行動

### 水の深さによる危険度

- 側溝やマンホールが分かりづらい。
- 水の流れが速い場合、転倒するおそれがある。
- 子供は転倒して流されるおそれがある。



### 避難するときのポイント

#### 河川などに近づかない

- 河川や水路の様子を見に行かない。



#### 長靴は履かない

- 長靴は水が入ると動きづらいので、運動靴を履く。

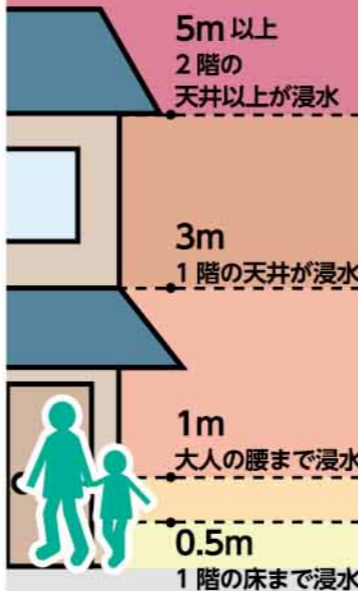


#### 車で避難しない

- 冠水するとエンジンが止まり、動かなくなる。

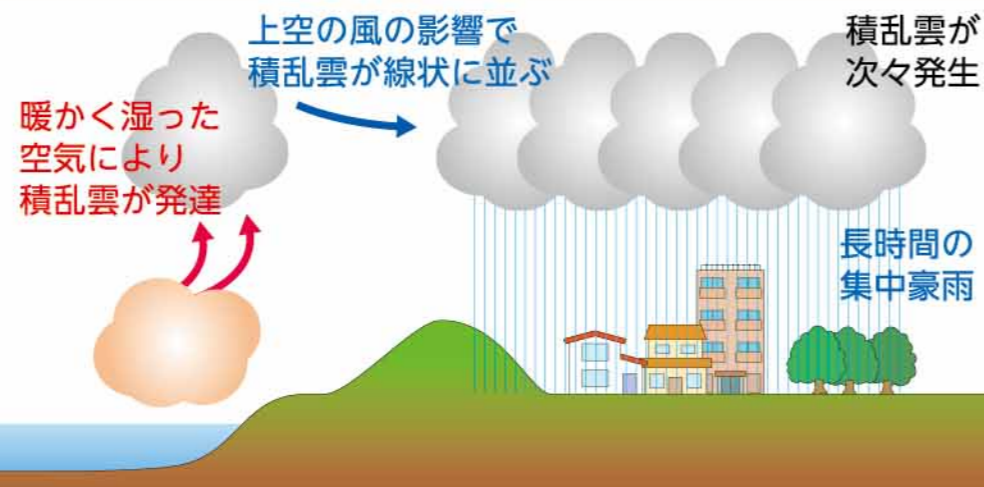


### 建物から判断する水の深さ



### 線状降水帯

- 線状降水帯は、発達した積乱雲が次々に列をなすよう発生し、大雨を降らす現象です。
- 線状に伸びる長さは50km～300km程度、幅は20km～50km程度に及びます。
- 線状降水帯の発生メカニズムは未解明な点も多く、事前の発生予測は難しいとされています。



## 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

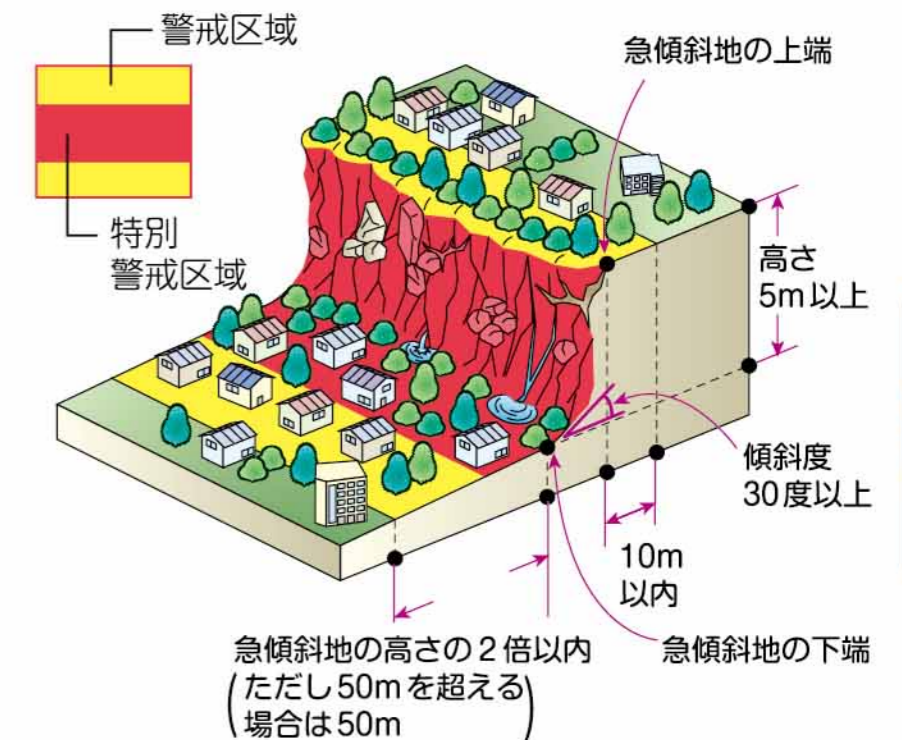
がけ崩れは、地中にしみ込んだ雨水によって土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。

### 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。  
危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

### 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。  
特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等の措置が講じられます。



## 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）の前兆現象



- 斜面に膨らみが見られる。
- 斜面から小石がパラパラと落ち出す。
- 湧き水の濁りや枯渇が見られる。
- 斜面に亀裂ができる。
- 斜面から山鳴り、地鳴りが聞こえる。
- 斜面に水の噴き出しが見られる。

## 土砂災害からの避難行動

### 避難するときのポイント

#### 前兆現象に注意する

- 近所や役場に知らせて避難する。



#### 危険区域からは水平避難

- 危険を感じたら速やかに避難する。



#### 逃げ遅れた場合の緊急避難

- 逃げ遅れた場合は垂直避難！

